

令和7年度生徒指導サポート実践校「特別活動の取組事例」

学校名	三次市立十日市小学校	対象となる主な学年	全学年
取組事例名	「SCによる構成的グループエンカウンター」		

◆ 児童の実態及び取組を通して育てたい児童像	
児童の実態	取組を通して育てたい児童像
<ul style="list-style-type: none"> ・不登校・不登校傾向児童が増加傾向にある。 ・学級や学校に位置づきにくく、学校で生活しづらい児童が在籍している。 	児童の居場所感（被受容感、充実感、自己存在感、安心感）を高め、楽しく学校生活をおくることができる児童。



◆ 取組の具体的内容																														
取組を実施する意図及びねらい 全校児童に構成的グループエンカウンターを実施し、児童の居場所感（安心感、充実感、自己存在感、被受容感）を高め、楽しく学校生活をおくることができるようにする。																														
取組の流れ・創意工夫・児童の変容等 4月に、学級の絆づくりとして、学級レクやグループエンカウンターを行うように職員に提案した。しかし、イメージが共有できていなかったせいか、学級によって対応に違いがあった。そこで、8月に全教職員を対象に、SCによる構成的グループエンカウンターの研修を行った。 2学期は、全学年を対象に、学年単位でSCによる構成的グループエンカウンターを行った。SCの訪問日に行ったため、4日間で6学年の構成的グループエンカウンターを行った。1学期と2学期に児童の居場所感（安心感、充実感、自己存在感、被受容感）についてアンケートを行った。																														
アンケートの結果																														
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">質問項目</th> <th colspan="2">はい</th> <th colspan="2">いいえ</th> </tr> <tr> <th>1学期</th> <th>2学期</th> <th>1学期</th> <th>2学期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>安心して学校で生活できていますか。【安心感】</td> <td>93.3%</td> <td>93.2%</td> <td>6.7%</td> <td>6.8%</td> </tr> <tr> <td>楽しく学校で生活できていますか。【充実感】</td> <td>92.9%</td> <td>94%</td> <td>7.1%</td> <td>6%</td> </tr> <tr> <td>自分にはいい所があると思いますか。【自己存在感】</td> <td>82.2%</td> <td>87.1%</td> <td>17.8%</td> <td>12.9%</td> </tr> <tr> <td>友達は自分のいい所を認めてくれますか。【被受容感】</td> <td>84.2%</td> <td>90.1%</td> <td>15.8%</td> <td>9.9%</td> </tr> </tbody> </table>	質問項目	はい		いいえ		1学期	2学期	1学期	2学期	安心して学校で生活できていますか。【安心感】	93.3%	93.2%	6.7%	6.8%	楽しく学校で生活できていますか。【充実感】	92.9%	94%	7.1%	6%	自分にはいい所があると思いますか。【自己存在感】	82.2%	87.1%	17.8%	12.9%	友達は自分のいい所を認めてくれますか。【被受容感】	84.2%	90.1%	15.8%	9.9%	
質問項目		はい		いいえ																										
	1学期	2学期	1学期	2学期																										
安心して学校で生活できていますか。【安心感】	93.3%	93.2%	6.7%	6.8%																										
楽しく学校で生活できていますか。【充実感】	92.9%	94%	7.1%	6%																										
自分にはいい所があると思いますか。【自己存在感】	82.2%	87.1%	17.8%	12.9%																										
友達は自分のいい所を認めてくれますか。【被受容感】	84.2%	90.1%	15.8%	9.9%																										
児童の居場所感（安心感、充実感、自己存在感、被受容感）を高めることを意図して、構成的グループエンカウンターを仕組んだ。構成的グループエンカウンターを実施した後のアンケートでは、自己存在感と被受容感の質問項目に高まりが見られた。構成的グループエンカウンターの感想では、「友達の意外な一面を知ることができた。」「これまで関わらなかった友達とも話ができうれしかった。」「友達との仲が深まった。」等他者との関わりに関する感想や、「自分のよさに気づくことができた。」「自分自身に新しい発見があった。」等自分自身に関する感想が多く見られた。その他にも、「友達が自分の気持ちを考えてくれた。」「協力すると達成できることが分かった。」等の感想も見られた。																														

◆ 成果（○）と課題及び今後に向けて（●）
<ul style="list-style-type: none"> ○児童の居場所感（特に自己存在感、被受容感）を高めることができた。 ○児童が自分自身のよさや他者との関りについて考えたり認めたりすることができた。 ●構成的グループエンカウンターの実施時期について、学級内の人間関係が形成される前の年度初めなど、時期の精選をすれば、絆づくりに向けて更に効果があると思われる。 ●学級担任も構成的グループエンカウンターを活用できるよう研修を早い時期に行えばよりよかった。